

第107回 定時株主総会

平成23年9月27日

株式会社 アルバック

■ 経営環境

▶ 日本

- ◆ 新興国の成長に支えられた企業収益の改善を背景に設備投資が緩やかに回復
- ◆ 東日本大震災による個人消費の落ち込み、生産活動の停滞、円高の進行などで厳しい状況

▶ 米国

- ◆ 雇用回復の遅れ、個人消費の低迷など、景気が本格的な回復には至らない

■ 経営環境

▶ 欧州

- ◆ 金融システム不安、雇用環境の改善の遅れなど
厳しい状況のまま推移

▶ 中国

- ◆ 依然として経済の拡大は継続
- ◆ 輸出入ともに伸び悩み拡大ペースは緩やかに
減速

■ 事業環境

▶ フラットパネルディスプレイ(FPD) 業界

◆ 大型テレビ市場の低迷

- ◆ 液晶パネルメーカーの一部で
生産調整や設備投資計画の延期

◆ スマートフォン、タブレットPCなどの モバイル機器の販売が好調に推移

◆ アジア地域を中心に中小型液晶ディスプレイ、 有機ELディスプレイの新規設備投資が本格化

■ 事業環境

▶ 半導体業界

◆PC需要に減速感

◆スマートフォン、タブレットPC

などのモバイル機器の需要増加
でメモリ需要が高まり、設備投資は
堅調に推移

■ 事業環境

▶ エネルギー・環境関連

◆ 地球温暖化ガス排出量削減

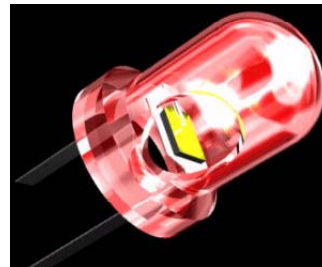
「エネルギー・デバイス」



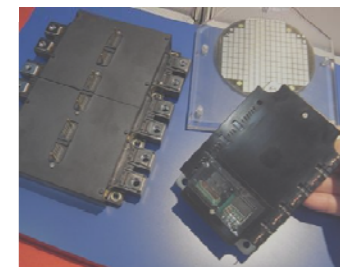
太陽電池



エコカー
(ハイブリッドカー
・電気自動車)



発光ダイオード
(LED)



パワー半導体



二次電池

◆ 「エネルギー・デバイス」の需要が引き続き拡大

■ 当社グループの対応

▶ 営業活動

- ◆ FPD、半導体製造装置など既存商品の競争力を高める
- ◆ 「ポストFPD戦略」を積極的に推進
- ◆ 装置に依存する従来のビジネスに加え
「脱装置・脱真空」ビジネスの拡大
 - ◆ 電気自動車(EV)向け急速充電器
 - ◆ 太陽光発電・急速充電システム
 - ◆ 太陽電池用部材などの商品の拡充

イノベーションの促進で新たなビジネスを展開

■ 当社グループの収益面での対応

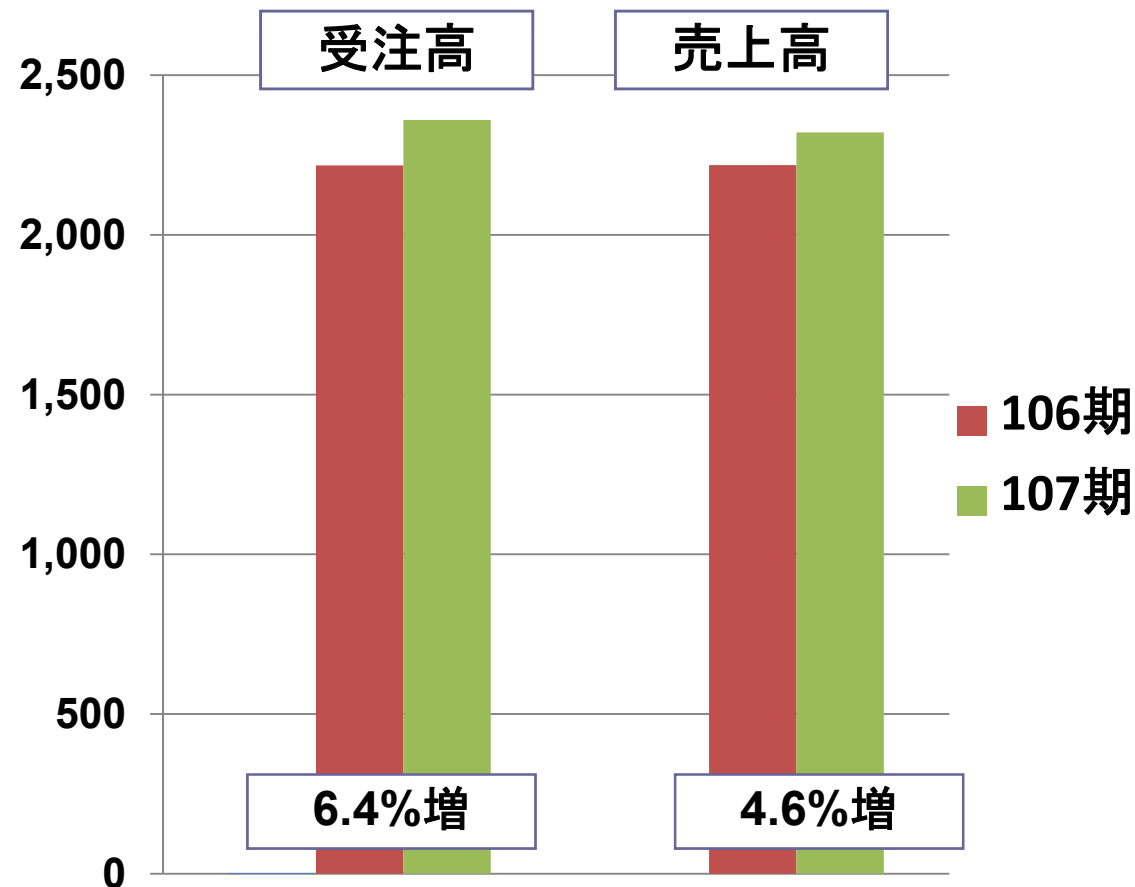
- ◆お客様からの継続的な価格引き下げ圧力
- ◆円高
- ◆アジアの製造装置メーカーとの厳しい価格競争

▶ 対応

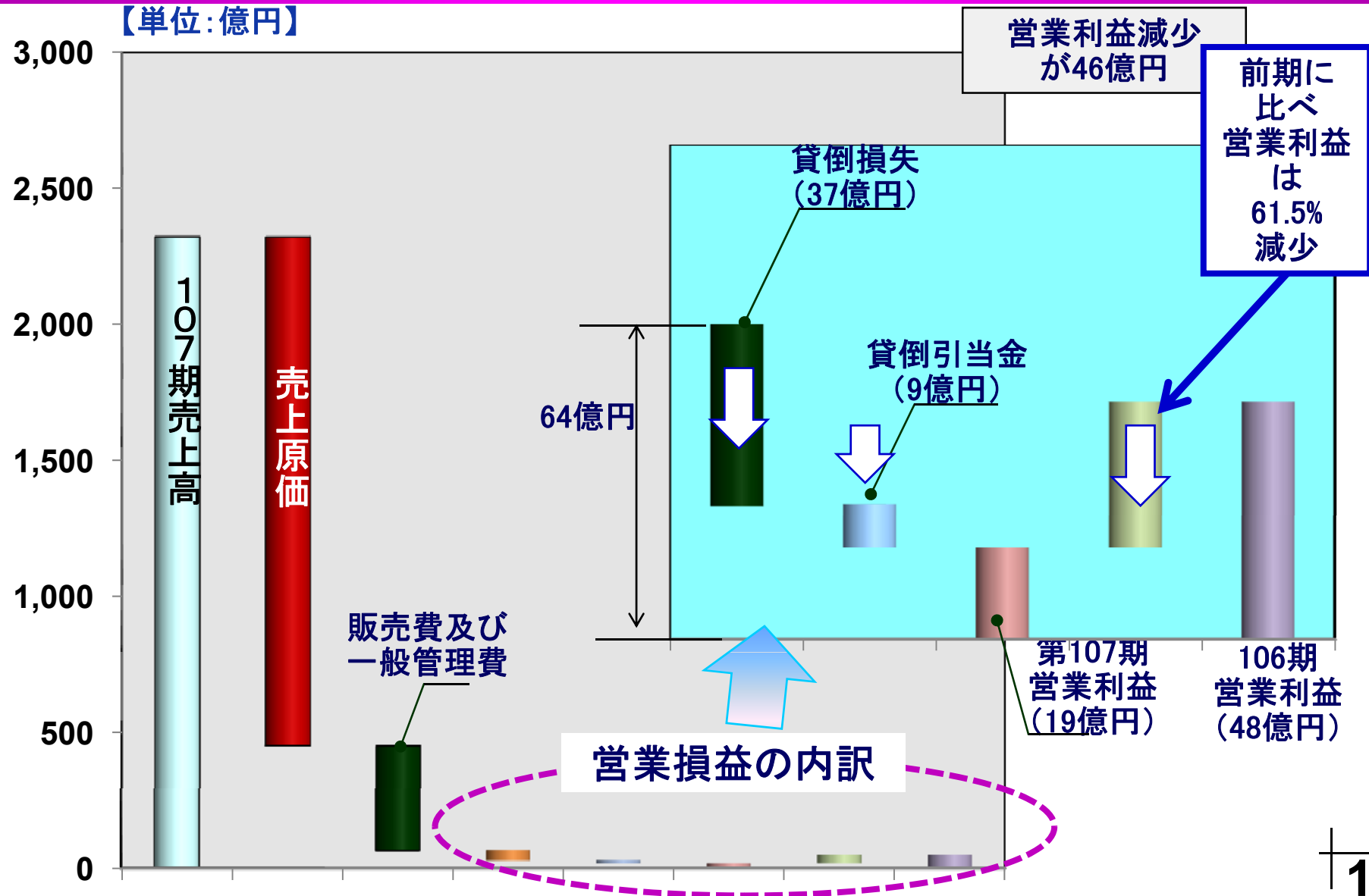
- ◆固定費圧縮
 - ◆グループ全体で諸経費削減、設備投資抑制など
- ◆コストダウン
 - ◆標準化など生産改革の推進
 - ◆海外への生産移管などグローバル生産体制の推進
 - ◆生産効率化

第107期業績(連結)

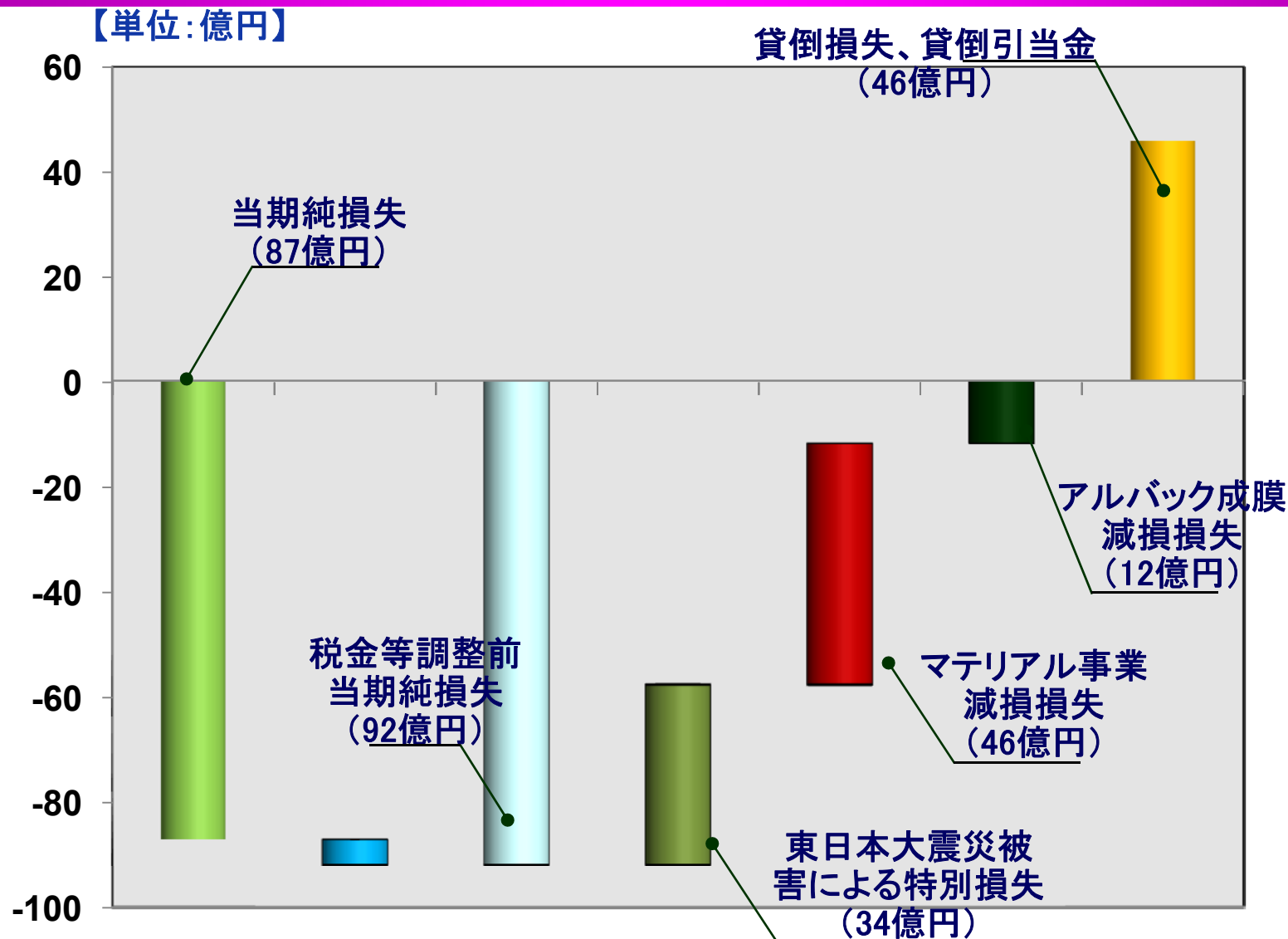
【単位:億円】



第107期の業績について



第107期の業績について



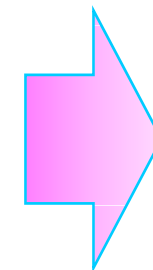
■FPD製造装置

▶売上

- ◆大型液晶TV用スパッタリング装置
→韓国、台湾、中国向け
- ◆中小型低温ポリシリコン(LTPS)TFT液晶ディスプレイ製造用スパッタリング装置、プラズマCVD装置 →韓国向け

▶受注

- ◆大型液晶TV用スパッタリング装置
→中国向け
- ◆中小型LTPS TFT液晶ディスプレイ製造用のスパッタリング装置
→国内向けなど



堅調に推移

■太陽電池(PV)製造装置

- ▶日本、アジア、欧米向けに薄膜系、結晶系太陽電池製造装置を中心に売上計上
- ▶結晶系や化合物系太陽電池に対し薄膜シリコン太陽電池の価格優位性が薄れ、投資意欲が減退



薄膜シリコン太陽電池一貫製造ラインの受注低迷が続き厳しい状況のまま推移



薄膜系
太陽電池製造装置



結晶系
太陽電池製造装置

真空機器事業(3)

■半導体及び電子部品製造装置

▶スマートフォン、タブレットPCなどの需要が増加

◆メモリ用スパッタリング装置

→台湾、米国、韓国向けに売上計上

▶NANDフラッシュメモリの代替として期待

◆不揮発性メモリ用製造装置

▶省エネのキーデバイスとして需要増

◆パワー半導体用製造装置

▶照明や液晶ディスプレイ(LCD)用バックライトのLED需要が急増

◆LED製造用エッチング装置、成膜装置

→受注・売上が総じて堅調に推移



スパッタリング装置
ENTRON™-EX
シリーズ



スパッタリング装置
SRHシリーズ



エッチング装置
NEシリーズ

■コンポーネント

▶FPDなどの設備投資が活発化

◆アジア中心にFPD向け製造装置用ドライポンプやクライオポンプ

→受注・売上が堅調に推移

▶民生用の小型真空ポンプや電源・計測機器関連

→受注・売上増加



ドライポンプ



クライオポンプ



計測機器

真空機器事業(5)

■一般産業用装置

▶巻取式蒸着装置、真空熱処理炉などを中心に売上計上

◆巻取式蒸着装置、巻取式スパッタリング装置

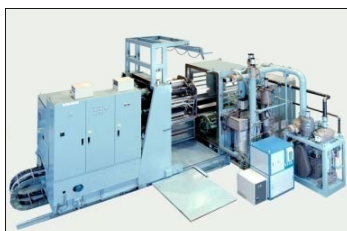
→受注が堅調に推移

◆日本向けフィルムコンデンサ用巻取式蒸着装置「EWEシリーズ」

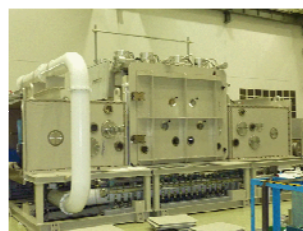
◆日本、韓国向けタッチパネル用巻取式スパッタ装置「SPWシリーズ」

▶希土類磁石製造装置、医薬品向け真空凍結乾燥装置

→引き合い・受注が増加



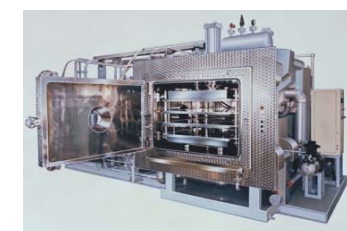
巻取式蒸着装置
EWEシリーズ



巻取式
スパッタリング装置
SPWシリーズ



真空熱処理炉
FHHシリーズ



医薬品向け
真空凍結乾燥装置
DFシリーズ

真空応用事業(1)

■材料・部材

▶液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット材料

- ◆日本、韓国、台湾を中心に受注・売上を計上
- ◆製造装置とのソリューションビジネスを積極的に展開
- ◆リサイクルの推進、生産効率の向上などコスト削減



パネルメーカーの減産や販売価格
引き下げ圧力にコストダウンが
追いつかず、厳しい経営環境

真空応用事業(2)

■その他

▶制御システム関連

◆メタル、自動車業界向けの設備投資が回復基調→受注拡大

▶分析機器関連

◆日本の民間企業や欧米の大学から受注

▶EV向け急速充電器、太陽光発電・急速充電システムの拡販活動を多方面に展開

→引き合い・受注が増加

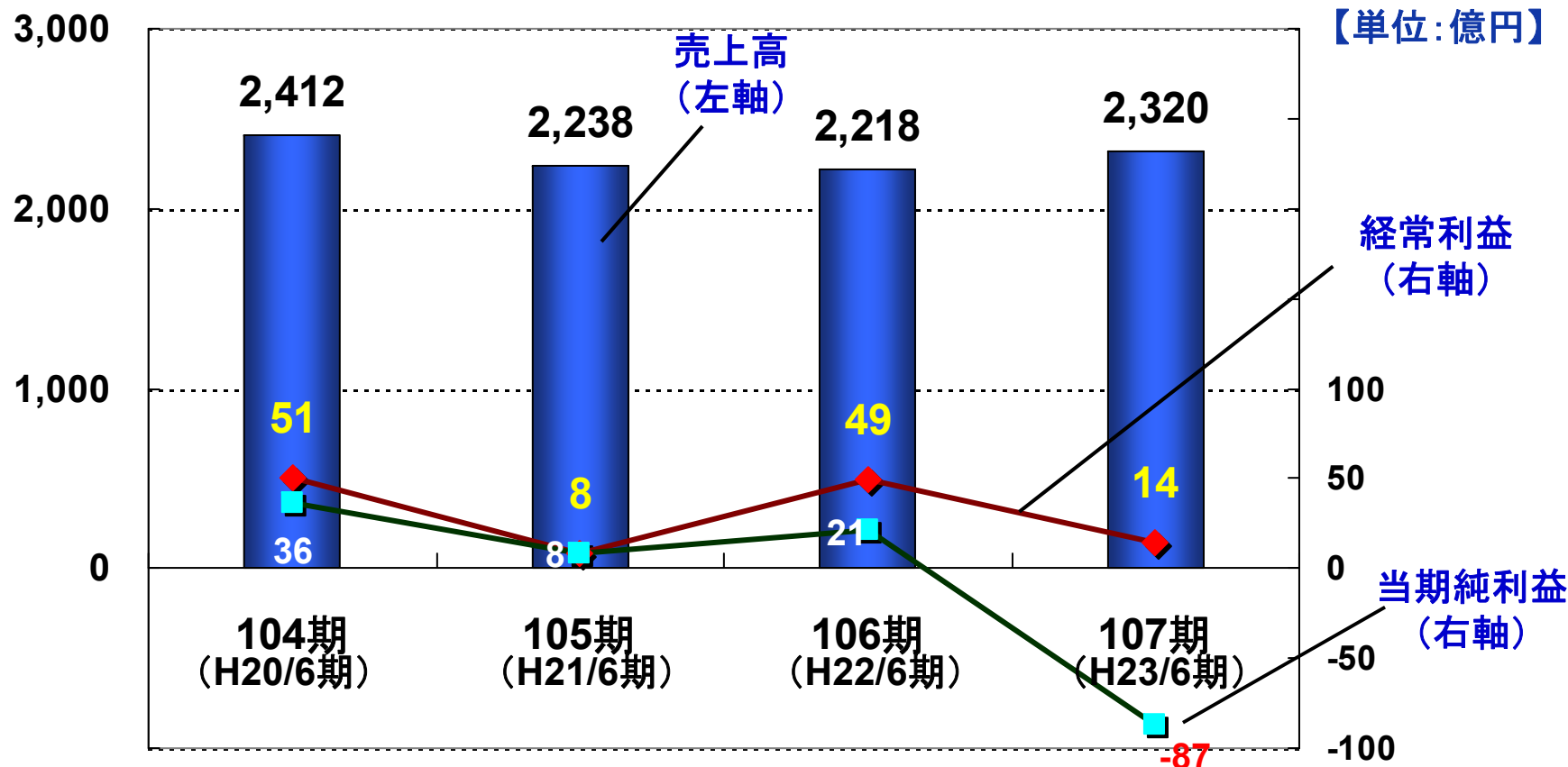
太陽光発電・急速充電システム

設備投資の総額:178億円

主な設備投資の内容	会社名
<ul style="list-style-type: none"> ・千葉超材料研究所建設 ・電子機器関連及び半導体の評価装置 ・電子材料製造用生産設備 ・製品情報管理システム 	(株)アルバック
<ul style="list-style-type: none"> ・本社棟建設 ・FPD等製造装置向け部品洗浄設備 	アルバックテクノ(株)
<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料製造用工場増築 ・同生産用設備 	愛発科電子材料(蘇州)有限公司
<ul style="list-style-type: none"> ・大型PV・FPD製造装置生産用工場建設 	愛発科真空技術(蘇州)有限公司

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況(連結)

【単位:億円】



【単位:億円】

総資産	3,031	3,181	3,138	3,136
純資産	919	902	1,025	920

■ FPD、半導体及び電子部品業界

- ▶ スマートフォン、タブレットPCなどのモバイル機器の需要が堅調に推移し成長を維持するが、設備投資の伸びは鈍化

■ エネルギー関連

- ▶ 福島第一原発事故の影響でエネルギー政策の転換が求められる
- ▶ 「省エネ、創エネ、蓄エネ」に関する需要増加
- ▶ 太陽電池、ハイブリッドカー・EV、二次電池、LED、パワー半導体などへの投資が増加する予想

■ 地域

- ▶ 製造業の中心が中国、インド、東南アジアなどの新興国にシフト

■ 製造装置業界

- ▶ 新興国へ、韓国、台湾、中国の装置メーカーの進出が顕著
- ▶ 円高などで競合メーカーとの熾烈な価格競争が加速

中長期の成長戦略

- 既存製造装置の商品競争力を高める
- FPDの次に成長する「4つの柱」を積極的に推進

『4つの柱』 （「ポストFPD戦略」）

- ◆ デジタル家電用電子部品製造装置
- ◆ エネルギー・環境関連製造装置
- ◆ 中国市場
- ◆ カスタマーズサポート事業と委託加工

- 長期的な成長戦略
 - ▶ 既存の装置に依存するビジネスに『脱装置・脱真空』ビジネスなどの新商品・新規事業を加えた成長戦略を展開

①「脱装置・脱真空」ビジネスの展開

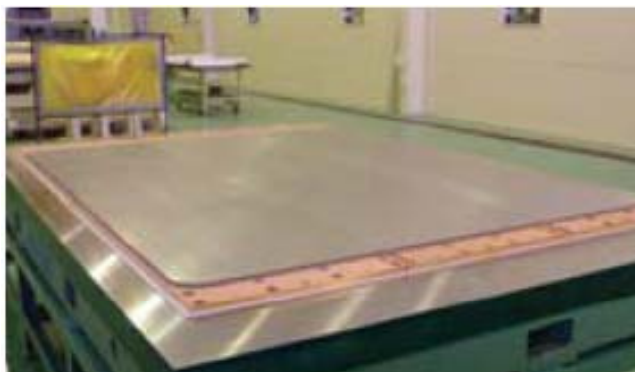
▶「ポストFPD戦略」(平成17年2月)を公表
→積極的にビジネスを展開

▶更なる成長のために

装置ビジネスに依存していたビジネスモデルに
真空装置や真空技術以外の新商品・新規事業を
加えた「脱装置・脱真空」ビジネスを展開

① 「脱装置・脱真空」ビジネスの展開

◆ マテリアル事業



液晶ディスプレイ用
スパッタリングターゲット材料



半導体用
スパッタリングターゲット材料

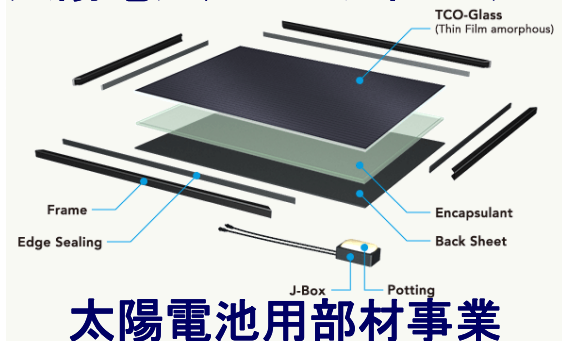
①「脱装置・脱真空」ビジネスの展開



◆新たなビジネスの展開



太陽電池用コンディショナ



太陽電池用部材事業



EV用急速充電システム



①「脱装置・脱真空」ビジネスの展開



◆再生可能エネルギー関連事業へ進出



太陽光発電システム

② コストダウン戦略

▶ 生産改革の推進

◆ 競合他社に対する価格競争力の向上

③ 受注拡大戦略

▶ 既存装置のシェア拡大

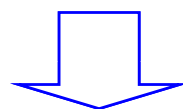
▶ 「ポストFPD戦略」の推進

▶ 新商品拡販・新規事業の展開

④ 財務戦略

▶ 営業キャッシュ・フローの獲得

収益性の向上とキャッシュ・コンバージョン・
サイクル(現金回収サイクルの指標)の短縮化で
資金効率を向上



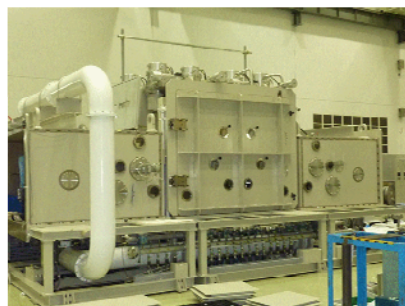
商品開発・新規事業開拓戦略の研究開発投資、
グローバル戦略の設備投資等に充当

⑤ 商品開発・新規事業開拓戦略

- ▶ 競合他社が真似できない独創的で最先端かつ高収益性が期待できる新製品をいち早く開発、市場投入
- ▶ 差別化による商品競争力の向上をめざす



有機EL製造装置



タッチパネル



薄膜シリコン太陽電池
変換効率の向上



不揮発性メモリ用製造装置



LED製造装置

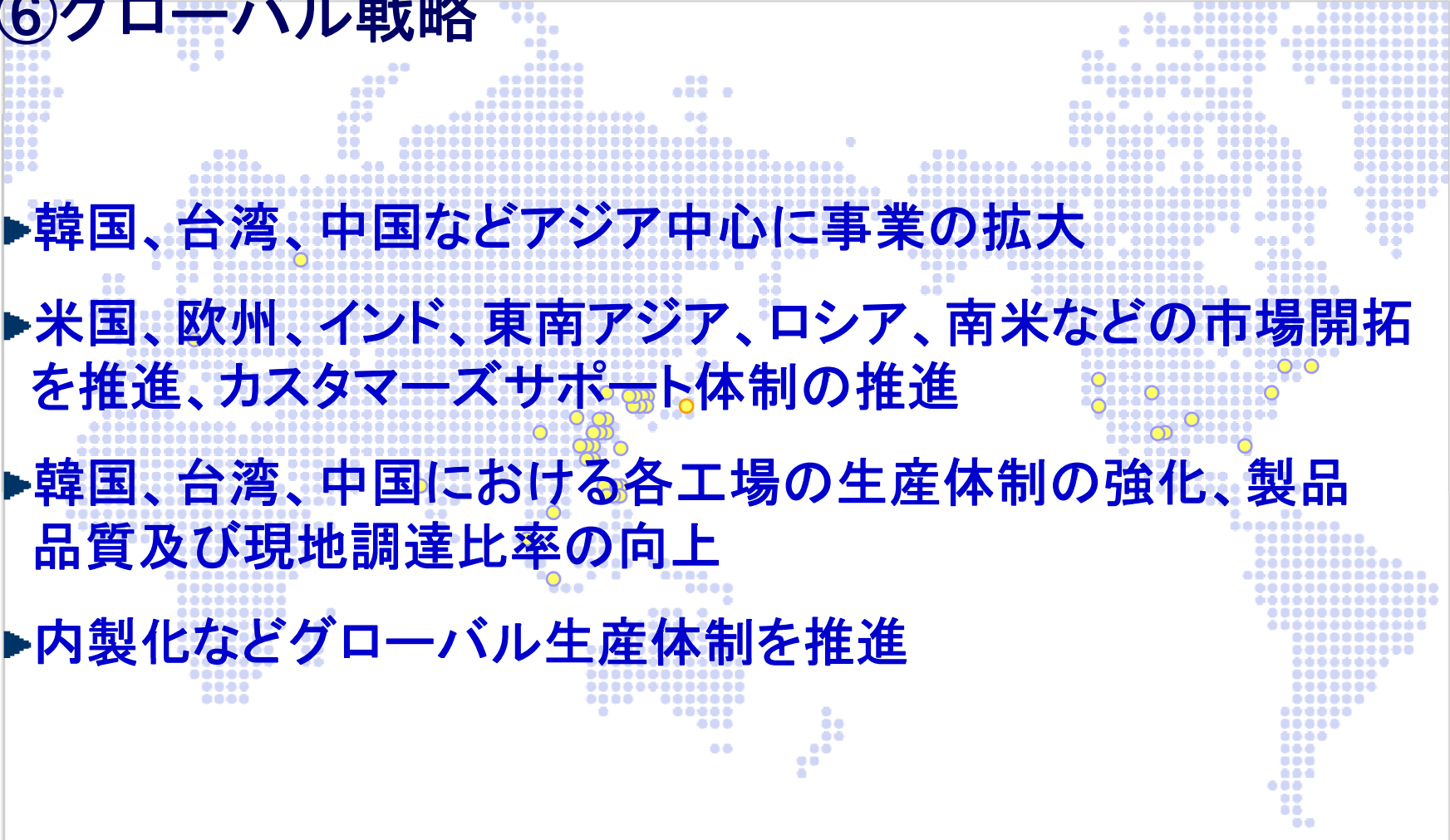


光学薄膜用装置

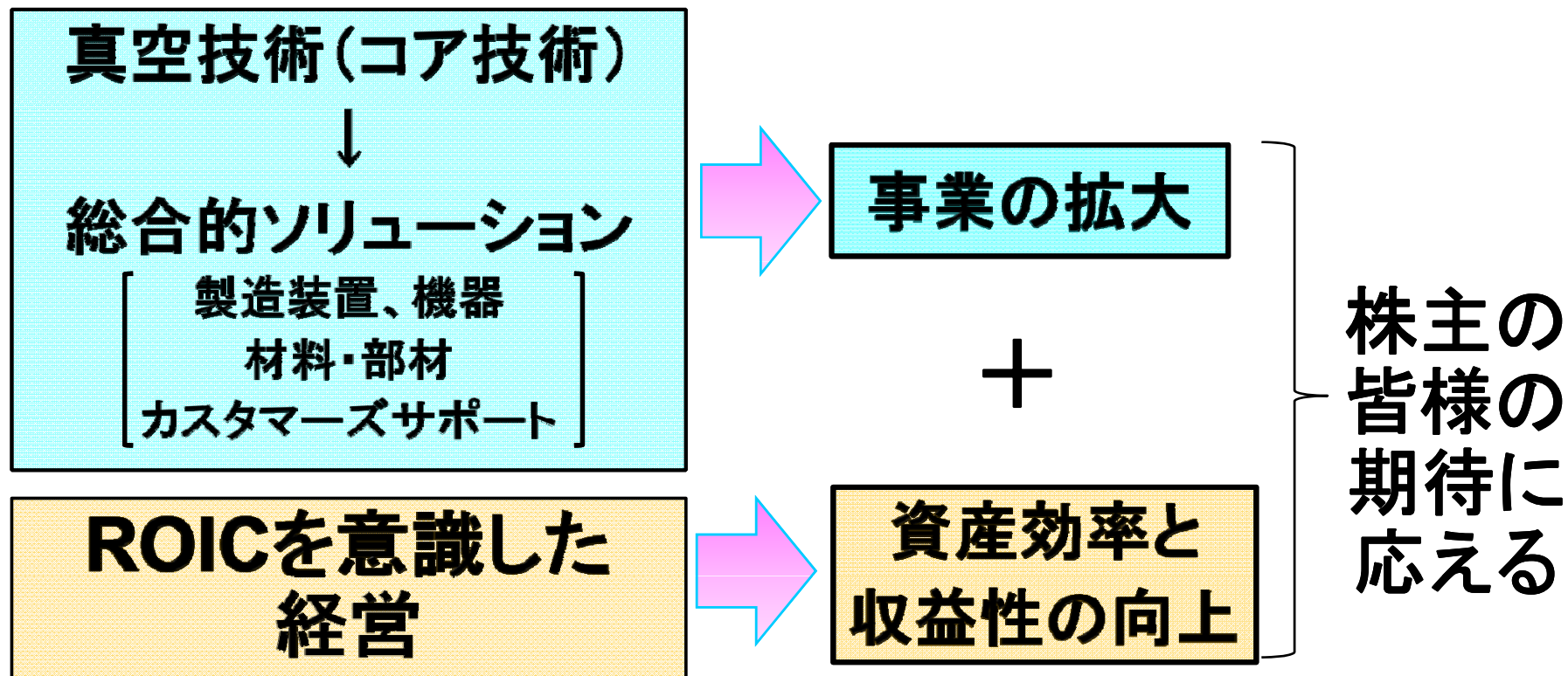


透明酸化物半導体
ターゲット材料 (IZGO)

⑥ グローバル戦略

- 
- ▶ 韓国、台湾、中国などアジア中心に事業の拡大
 - ▶ 米国、欧州、インド、東南アジア、ロシア、南米などの市場開拓を推進、カスタマーズサポート体制の推進
 - ▶ 韓国、台湾、中国における各工場の生産体制の強化、製品品質及び現地調達比率の向上
 - ▶ 内製化などグローバル生産体制を推進

中長期の成長戦略(まとめ)



ROIC: 投下資本に対する収益性を示す指標

連結貸借対照表(資産の部)

【単位:億円】

	第106期	第107期	増 減
流動資産	1,992	2,010	18
固定資産	1,146	1,126	△ 20
有形固定資産	896	871	△ 25
無形固定資産	44	55	11
投資その他の資産	206	200	△ 6
資産合計	3,138	3,136	△ 2

資産の部: 2億円減

◆流動資産: 18億円増

- ◆現金及び預金 : 49億円増加
- ◆たな卸資産 : 36億円増加
- ◆受取手形及び売掛金 : 80億円減少

◆固定資産: 20億円減

- ◆有形固定資産 : 25億円減少

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

連結貸借対照表(負債・純資産の部)

【単位:億円】

	第106期	第107期	増減
(負債の部)			
流動負債	1,396	1,750	354
固定負債	717	466	△ 251
負債合計	2,113	2,216	103
(純資産の部)			
純資産合計	1,025	920	△ 105
負債純資産合計	3,138	3,136	△ 2

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

負債の部 : 103億円増加

- ◆短期借入金 : 195億円増加
- ◆コマーシャル・ペーパー : 100億円増加
- ◆支払手形及び買掛金 : 10億円減少
- ◆長期借入金 : 89億円減少
- ◆新株予約権付社債 : 155億円減少

純資産の部: 105億円減少

- ◆当期純損失 : 87億円計上
- ◆配当金支払い : 10億円

連結損益計算書

【単位：億円】

	第106期 (H22/6期)	第107期 (H23/6期)	前期比
売上高	2218	2,320	102 (+4.6%)
経常利益	49	14	△ 35 (△ 70.8%)
当期純利益	21	△ 87	△ 108 (-)

【()内は増減率】

貸借対照表

【単位：億円】

	第106期	第107期	増減
(資産の部)			
流動資産	1,511	1,356	△ 154
固定資産	954	1,012	57
資産合計	2,465	2,368	△ 97
(負債の部)			
流動負債	1,132	1,341	209
固定負債	555	334	△ 220
負債合計	1,686	1,675	△ 11
(純資産の部)			
株主資本	779	693	△ 86
評価・換算差額等	△ 0	△ 0	△ 0
純資産合計	779	693	△ 86
負債純資産合計	2,465	2,368	△ 97

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

損益計算書(当社単体)

【単位:億円】

売上高	1,624
経常利益	△46
当期純利益	△75

1.貸倒損失の計上

■ 内容

韓国アルティソーラー社納入の「薄膜Si太陽電池一貫製造ライン」で
売掛金回収不能のため、貸倒損失(37億円)と貸倒引当金(9億円)を計上

■ 経緯

2008年5月契約締結し、同年10月 納入

2009年6月検収、引き渡し後、アルティは生産開始

→金融危機で太陽電池市場の環境悪化。生産活動が滞り、資金繰り悪化。

法的な手段を含めた代金回収の通達、経営トップによる会談を重ね、金融機関からの支援の説明を受けた他、支払い確約書など入手したが、支払いは履行されなかった。

■ 現状

- ▶ 納入装置の所有権の確保と保全を行い、装置の転売先を模索中
- ▶ 再発防止策として与信管理の見直し(支払い条件等)を実施

2.災害による損失(東日本大震災)

■東日本大震災の被害

- ▶建屋等の被害について 3億円
 - ◆当社筑波超材料研究所及びアルバック東北(株)などの固定資産の修繕費及び経費
- ▶たな卸資産の被害について 30億円
 - ◆アルバック東北(株)で生産し八戸港で出荷手続き中の製品等が津波被害を受けたことによる、たな卸資産の損失相当額
- ▶震災による停電、部品供給の寸断等の影響は軽微

■大震災の発生後のアルバックグループの対応

- ▶八戸港の津波被害対策
 - ◆暫定的に津波来襲時にすぐに退避できる出荷方法を確立、保険検討
- ▶電力ピークカットは一部夜間シフト、休日振替などで対応
- ▶海外メーカーに対する競争力を維持するための対策を実施
 - ◆韓国、台湾、中国への生産シフトを加速
- ▶海外顧客の日本離れを防ぐ対策
 - ◆海外顧客への積極的な営業活動を強化

3.減損損失の計上

今後の成長を実現するための事業再構築に伴い計上

■ 事業再構築の内容

—マテリアル事業及びアルバック成膜(株)で不採算事業の撤退、ライン集約化—

▶マテリアル事業

◆減損処理 固定資産の減損損失処理 46億円
(マテリアル事業の資産のうち約50%)

◆人員削減 2011年末までに約160名削減及び配置転換
(マテリアル事業の人員比20%減)

◆成長の見込めない不採算商品からの撤退

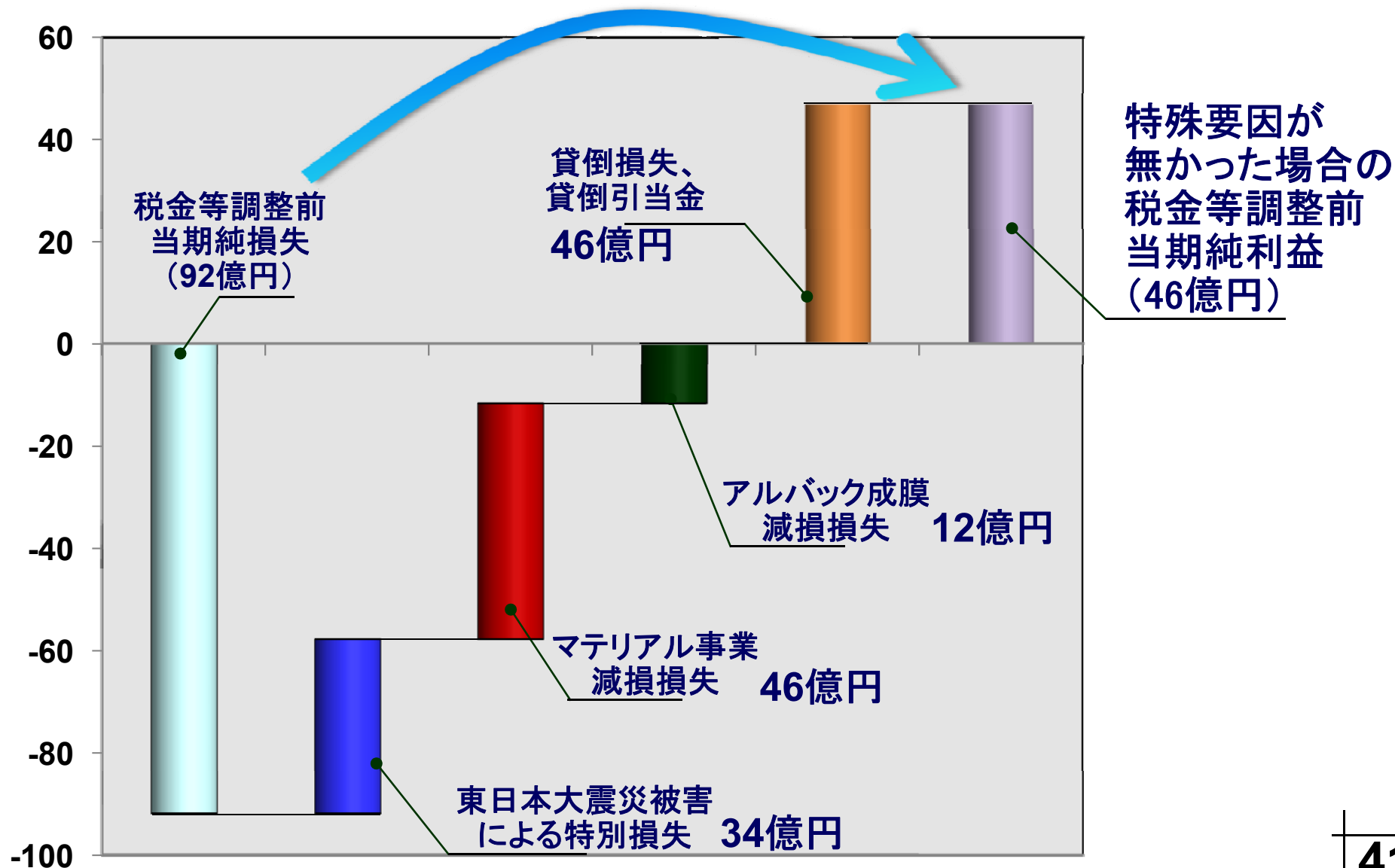
▶アルバック成膜(株)

◆減損処理 固定資産の減損損失処理 12億円
(マスクブランクス事業の資産のうち約20%)

◆人員削減 約82名 (リストラ費用) 3億円
(マスクブランクス事業の人員比35%減)

◆ラインの集約、台湾(台南)子会社への生産シフト

特殊要因が収益に及ぼした影響(まとめ)



配当について

■当社の配当方針

連結配当性向を主要な指標と位置づけ、連結業績や財務体質の強化など総合的に勘案のうえ、業績に連動する配当の考え方を取り入れ、連結当期純利益の20%の配当性向を維持するよう努力する方針。

	第104期	第105期	第106期
配当額	21円	21円	21円
配当性向	25%	111%	45%

■第107期の配当について

第107期は大幅な当期純損失を計上したため、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

経営責任について

■ 貸倒損失に係る経営責任について

アルティソーラー社の貸倒損失の計上に関する経営責任を明確にするため

▶ 役員報酬を減額（平成23年2～4月、3ヶ月）

代表取締役	役員報酬月額の 15% を減額
取締役副社長	役員報酬月額 の10% を減額
当該事業担当取締役	役員報酬月額 の5% を減額

■ 当期の業績及び無配に係る経営責任について

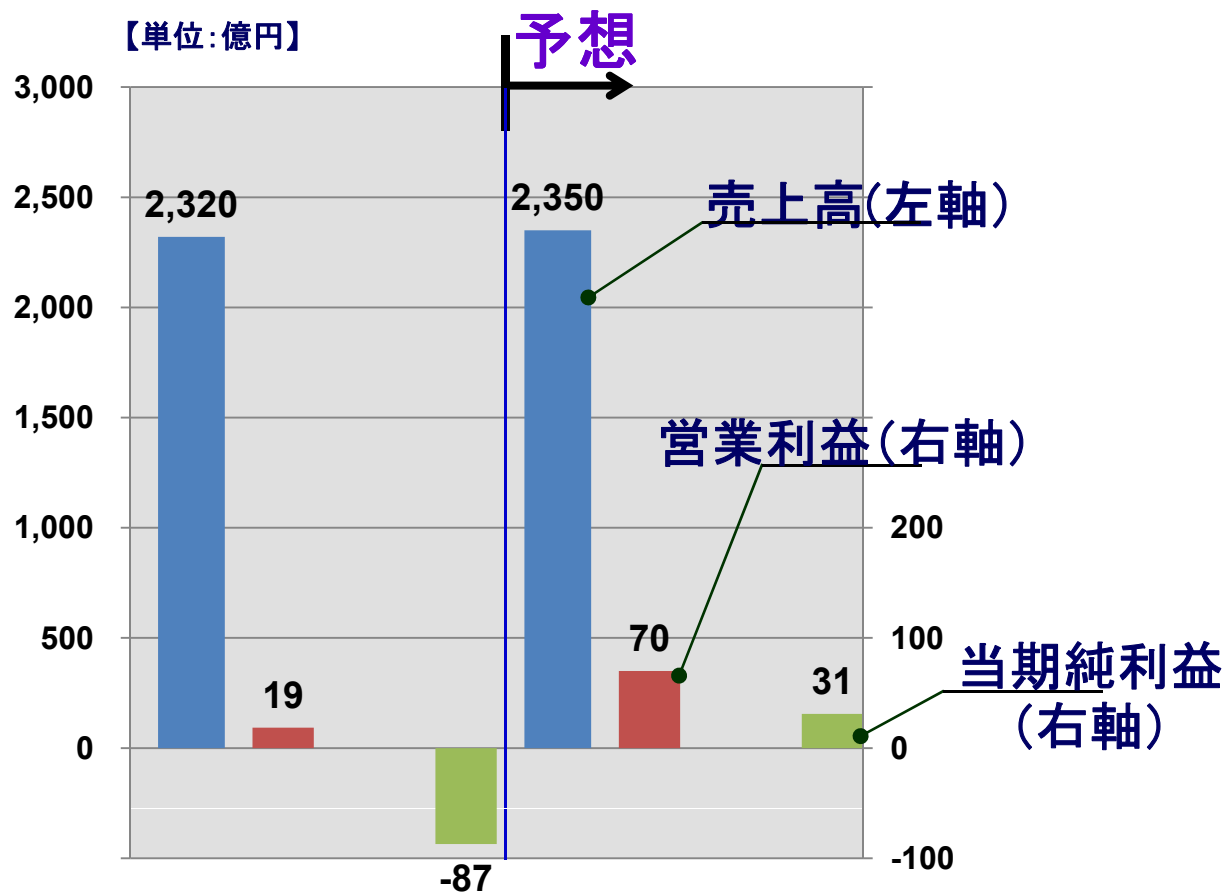
業績の下方修正及び配当見送りに対する経営責任を厳粛に受け止め、株主各位の信頼回復に努める決意を明確にするため

▶ 取締役の役員賞与支給を行わない

▶ 役員報酬を減額（平成23年8～11月、4ヶ月）

代表取締役及び取締役副社長	役員報酬月額 の30% を減額
専務取締役	役員報酬月額 の20% を減額
取締役（常勤）	役員報酬月額 の10% を減額
監査役（常勤）	取締役（常勤）と 同額 を自主返上

第108期 業績予想(連結)



第107期実績

第108期予想
(8月11日発表)

第108期配当予想

【単位:億円】

第108期 予想

売上高	2,350 (+1.3%)
営業利益	70 (+278.4%)
営業利益率	3.0%
経常利益	63 (+335.8%)
経常利益率	2.7%
当期純利益	31 —

■配当方針

連結当期純利益の20%の
配当性向を維持するよう
努力することを方針

■第108期配当

当期純利益31億円と発行済の
株式総数から求めた、1株当たり
当期純利益63円の約20%、
13円を予定

第1号議案 取締役7名選任の件

[取締役候補者(7名)]

ふじやま じゅんき
藤山 潤樹

さとう よしふみ
佐藤 孔史

さいとう かずや
齋藤 一也

なかの よしのぶ
中野 佳信
(社外取締役)

かとう たけお
加藤 丈夫

もとよし みつる
本吉 光

いわした せつお
岩下 節生※

※新任取締役候補

[非改選(11名)]

中村 久三

諏訪 秀則

砂賀 芳雄

山川 洋幸

五戸 成史

末代 政輔

小田木 秀幸

平野 裕之

山元 正年

中村 孝男

宇治原 潔 (社外取締役)

第2号議案 監査役3名選任の件

[監査役候補者(3名)]

おおい のぶお
大井 宣夫

あさだ せんしゅう
浅田 千秋
(社外監査役)

さかぐち すすむ
坂口 進※

※新任社外監査役候補者

[非改選(2名)]

待鳥 啓信
野中 孝男
(社外監査役)

本日は、まことに
ありがとうございました。

ULVAC

◆ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ(FPD)・半導体・太陽電池・電子部品などの業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品・原材料などの市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

株主懇談会

ご説明

代表取締役社長 諏訪秀則

2012/6期業績予想

受注高は、日本向けPV製造装置が前期比で増加し、FPD、半導体製造装置が減少の見込み。
 売上高は、期首受注残高が多いFPD製造装置、一般産業用装置が増加、一方、半導体製造装置が減少の見込み。利益は、FPD、半導体の収益性が悪化。一般産業用装置、材料、その他で黒字を予想。

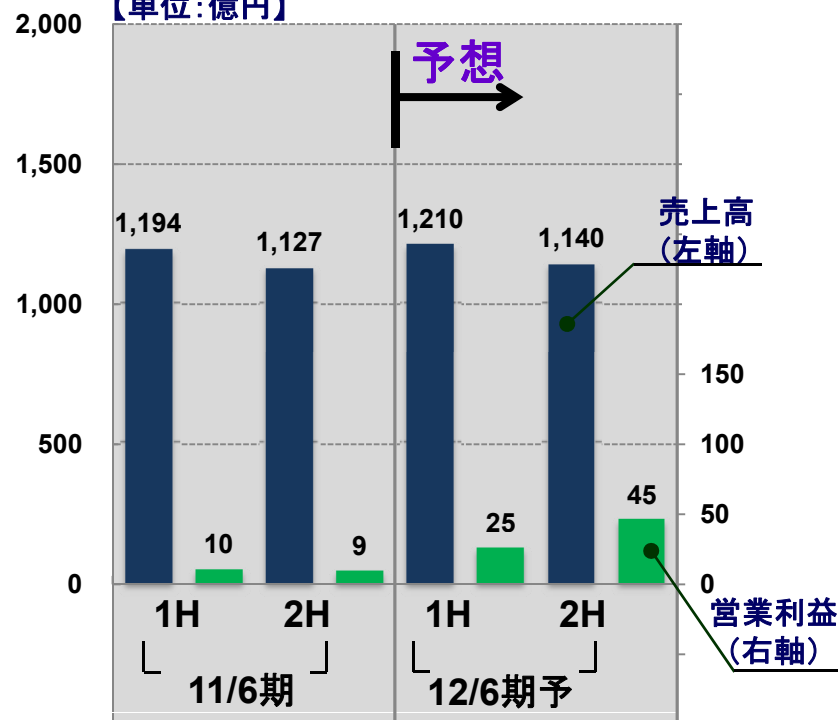
【単位：億円】

	11/6期 実績	12/6期予	
		2Q(累計)	通期
受注高	2,359 (+6%)	1,116 (+9%)	2,356 (-0%)
受注残高	1,109	1,015	1,115

売上高	2,320 (+5%)	1,210 (+1%)	2,350 (+1%)
営業利益	19 (-62%)	25 (+151%)	70 (+278%)
営業利益率	0.8%	2.1%	3.0%
経常利益	14 (-71%)	21 (+163%)	63 (+336%)
経常利益率	0.6%	1.8%	2.7%
当期純利益	-87	4	31

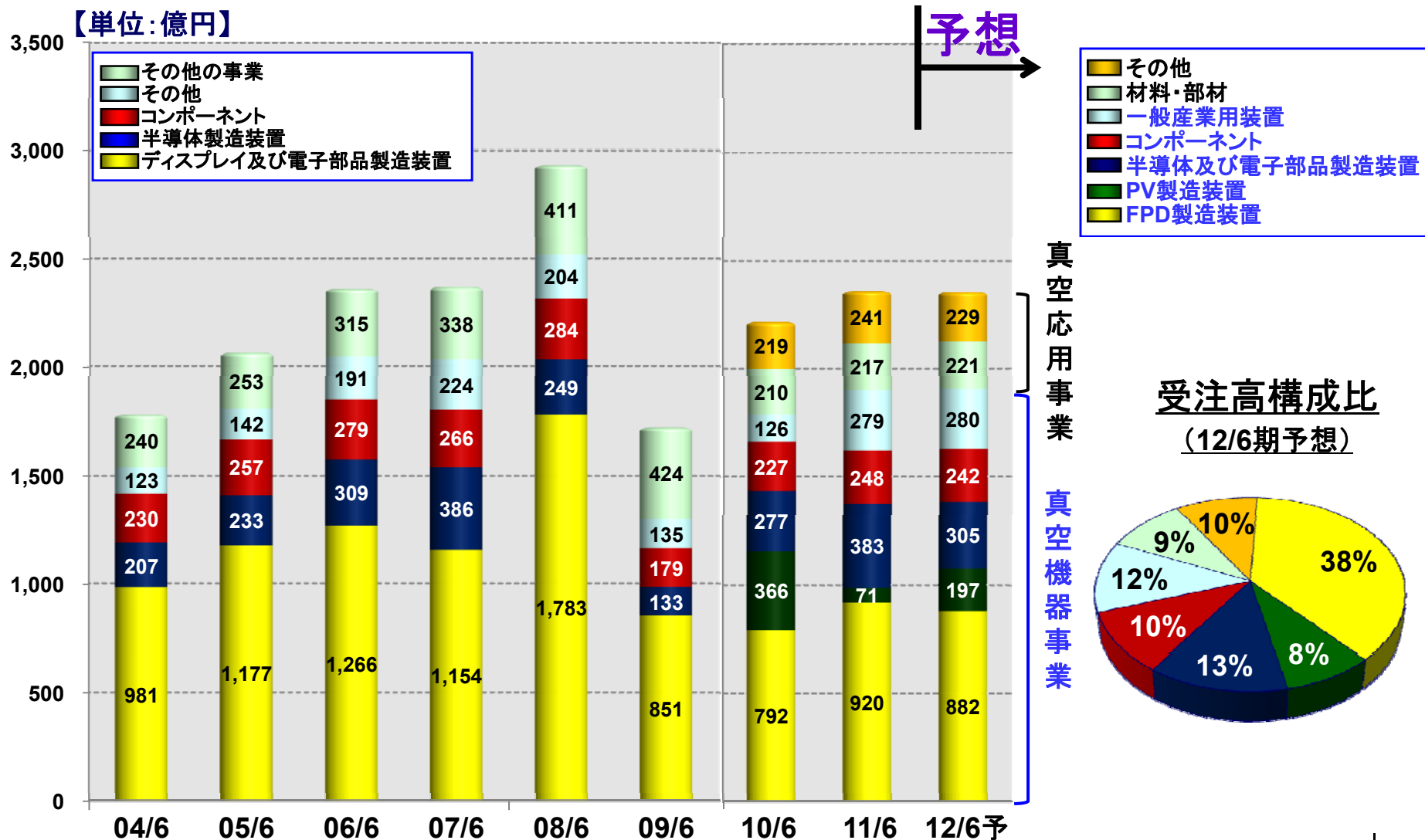
売上高と営業利益の推移(半期毎)

【単位：億円】



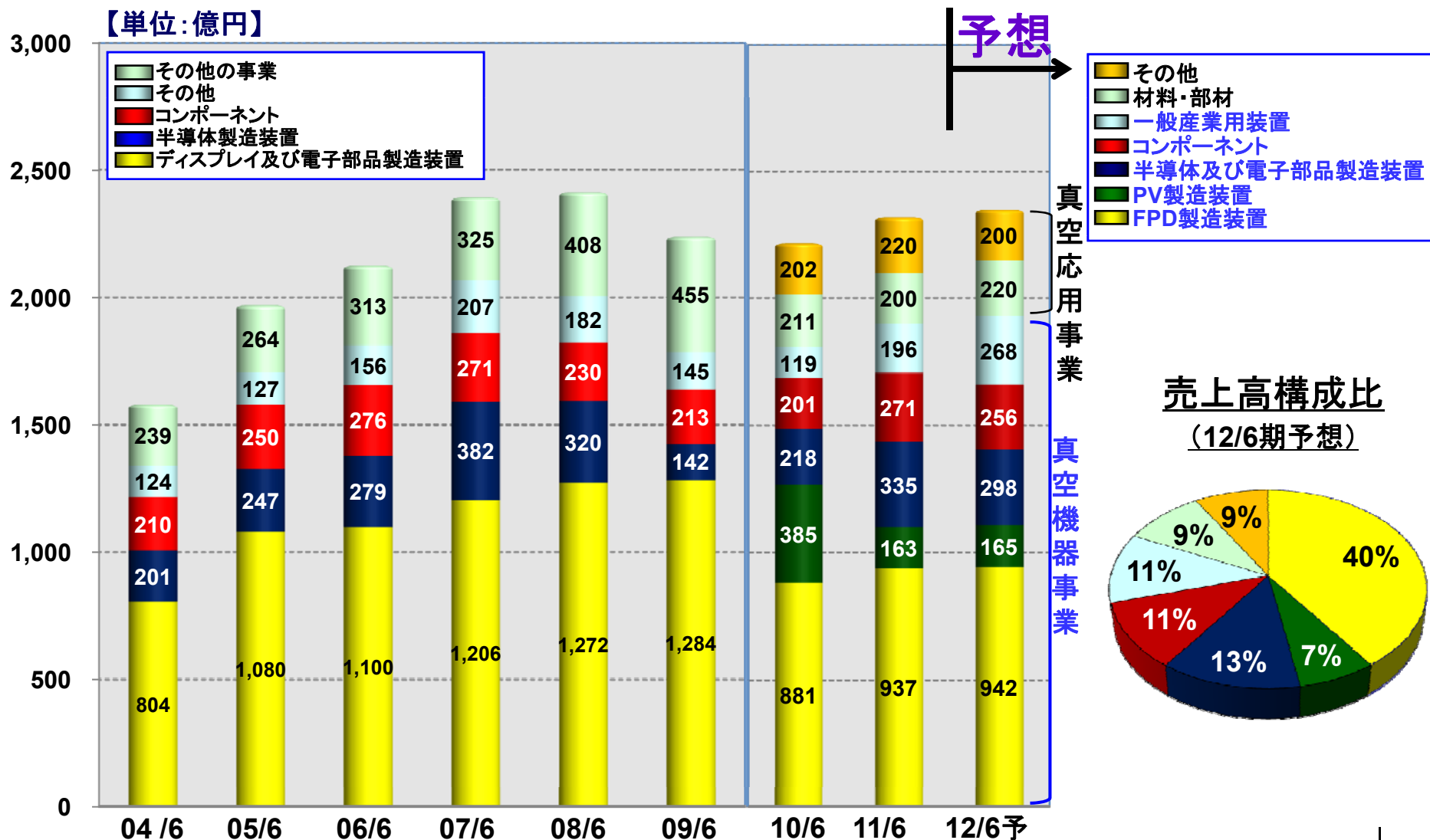
【()内は前年同期比、増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

品目別受注高実績・予想



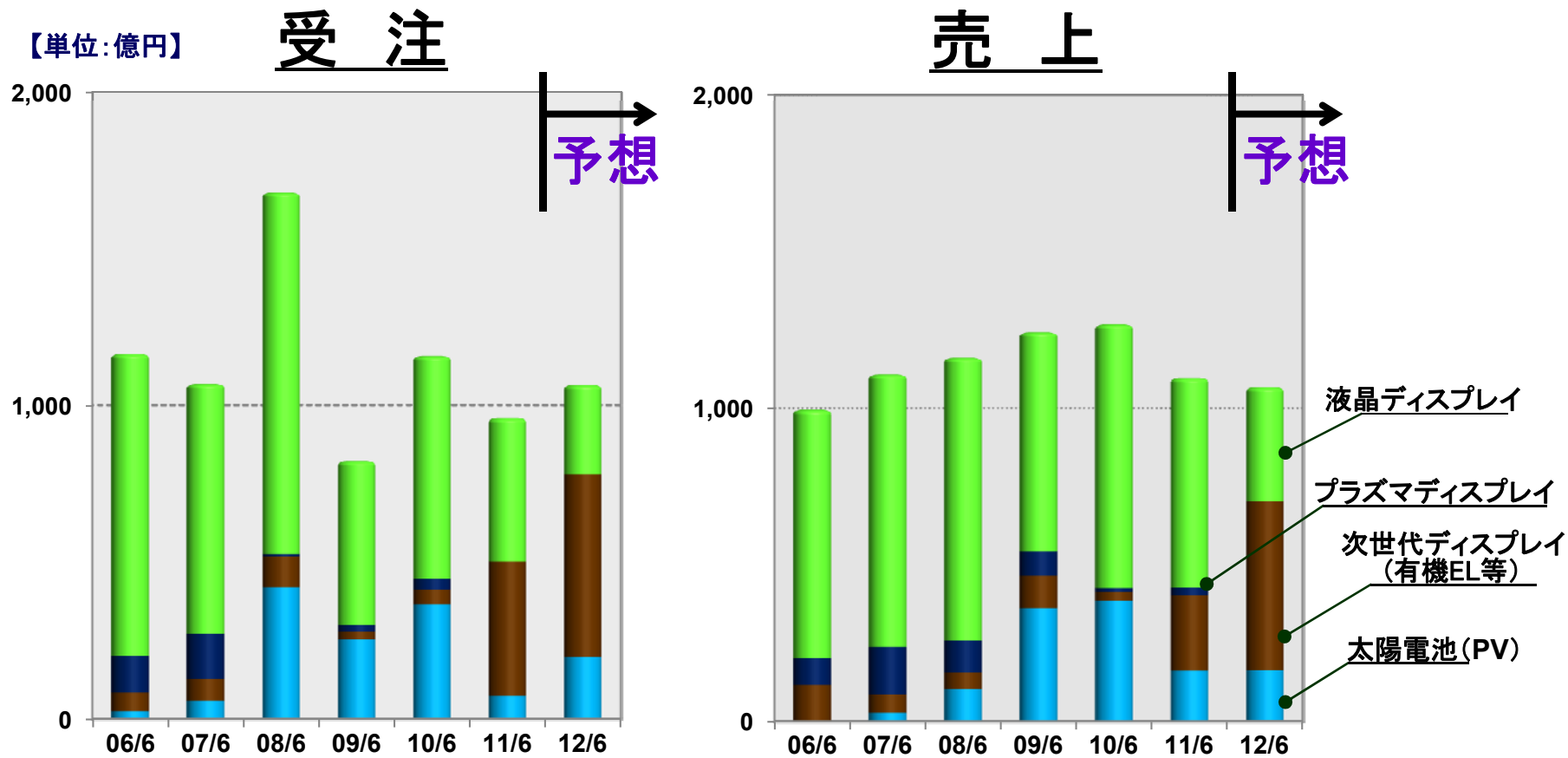
【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。
2010年6月期よりセグメント及び品目の名称が変更されています。】

品目別売上高実績・予想



【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。
2010年6月期よりセグメント及び品目の名称が変更されています。】

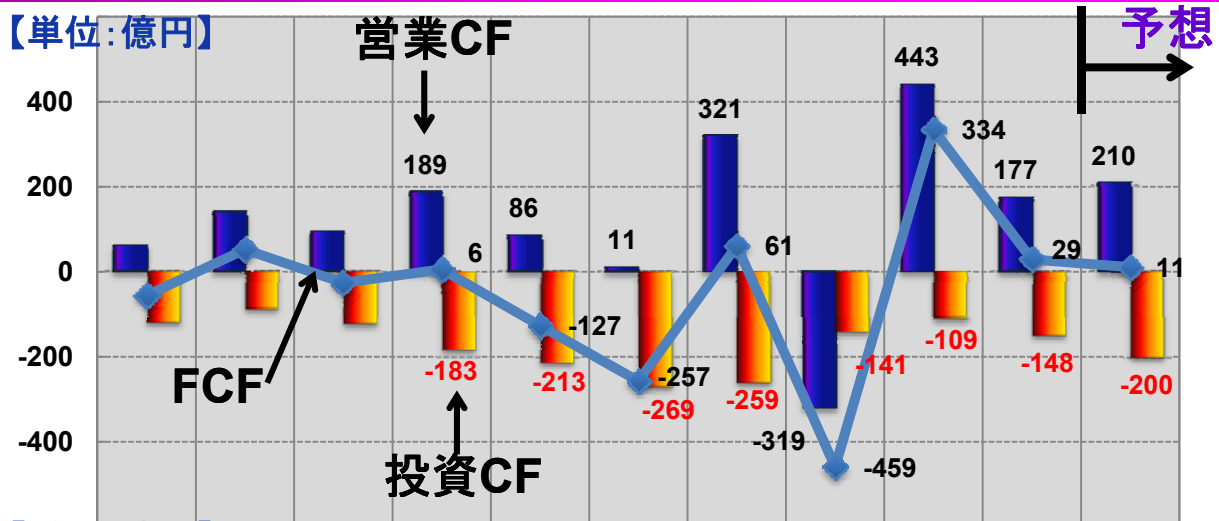
FPD製造装置・PV製造装置の推移・予想



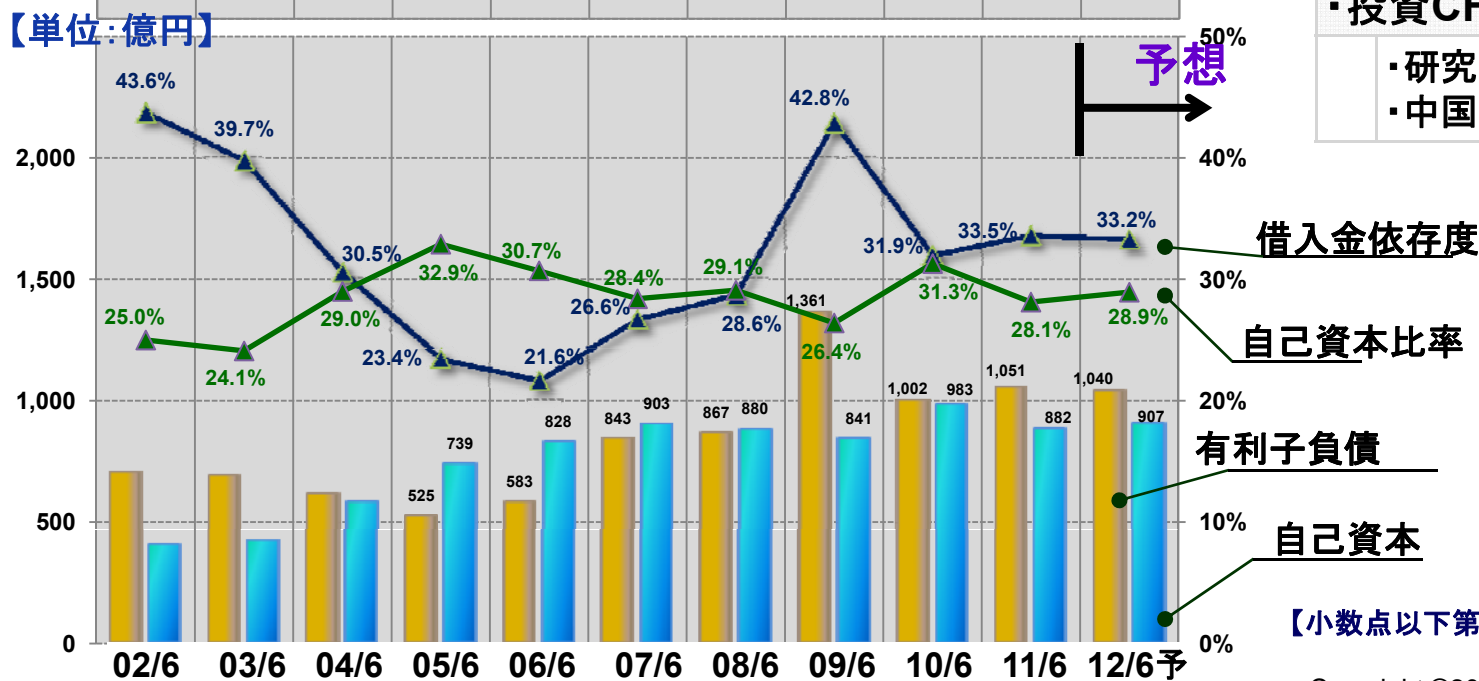
足元の受注環境

- ◆大型液晶ディスプレイは、全般的に投資意欲が減退。
- ◆中小型液晶のLTPS(低温ポリシリコン)や有機ELの引合い、受注が好調。有機EL照明の引合いが増加。
- ◆太陽電池は、薄膜が低調。高効率結晶系、化合物系(CISなど)の引合い増加。

キャッシュ・フローと有利子負債の実績・予想



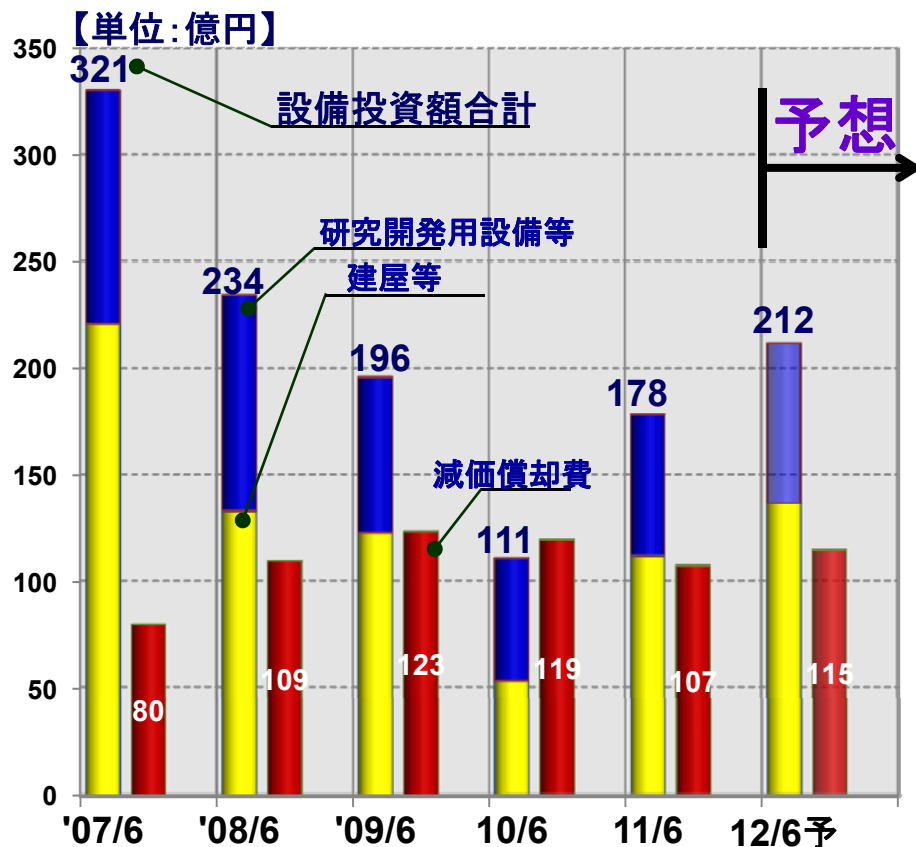
■2011/6期(実績)
FCF 2年連続黒字達成
■2012/6期(予想)
・FCF
・3期連続黒字
・営業CF : 210億円
・CCC短縮
・投資CF : 200億円
・研究開発投資の実施
・中国での成長投資の実施



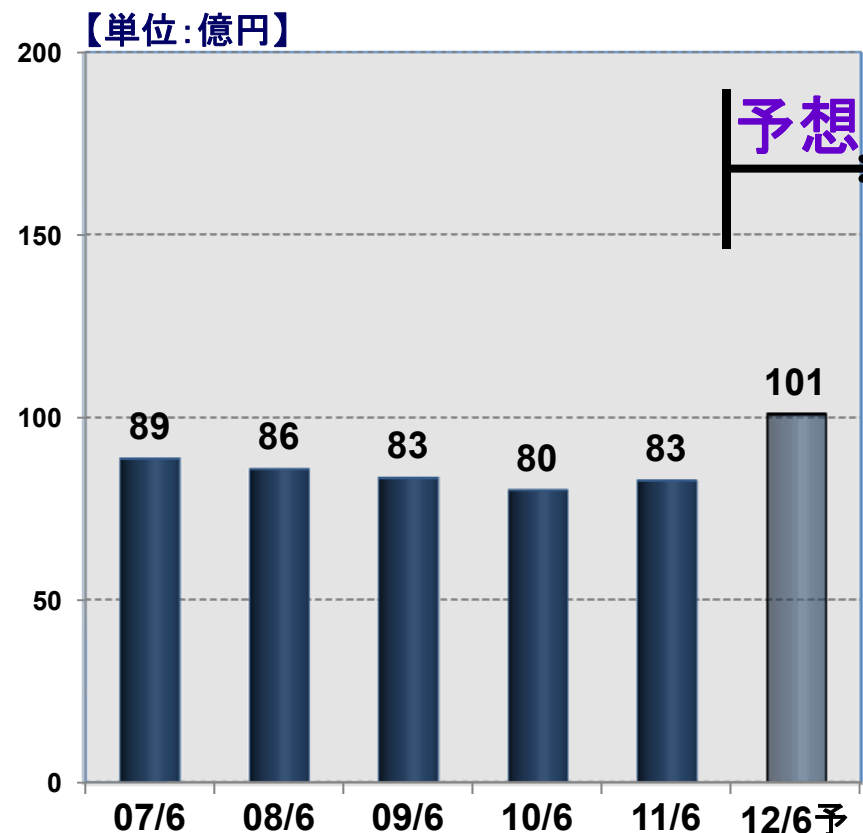
【小数点以下第2位は四捨五入】

設備投資、減価償却費、研究開発費の推移・予想

設備投資及び減価償却費の推移・予想



研究開発費の推移・予想



【小数点以下は四捨五入】

今後の事業環境

■ 今後の事業環境

日本市場が縮小、アジアへシフト。震災でより鮮明に。
円高の進行。アジア、欧州の競合先との価格競争が激化。

■ アルバックの対応(引き続き)

「既存事業依存からの大胆な脱却(脱装置・脱真空)」

「更なるグローバル化(市場開拓、コストダウン)」

■ 中長期の重点項目

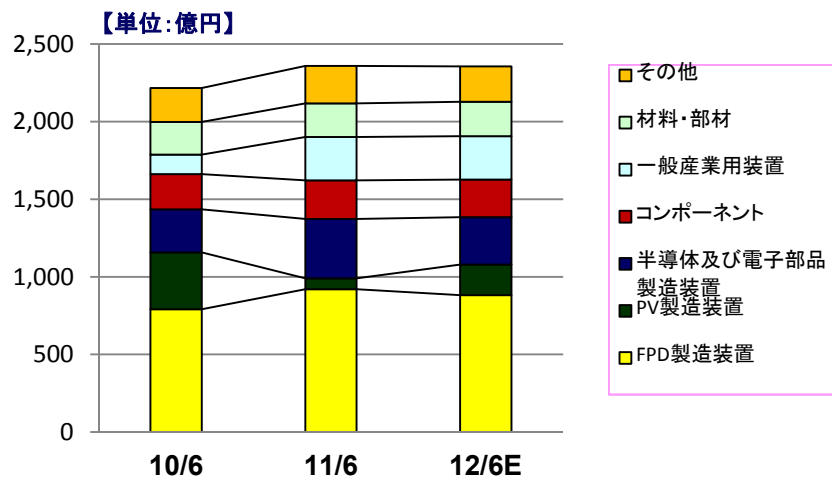
- ①再生可能エネルギー関連
(PV, EV)
- ②マテリアルビジネス、委託加工
- ③ターンキーソリューション
- ④中国での成長
- ⑤事業再構築
- ⑥生産体制、生産拠点の
大胆な見直し

12/6期の重点

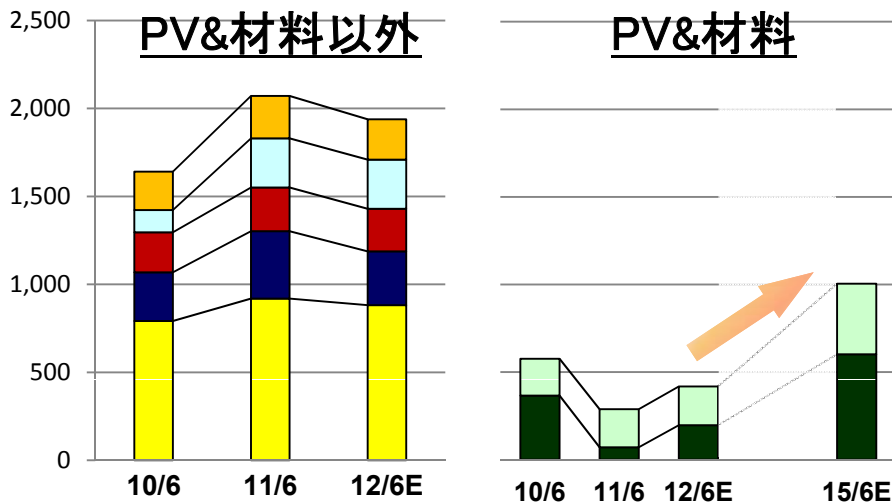
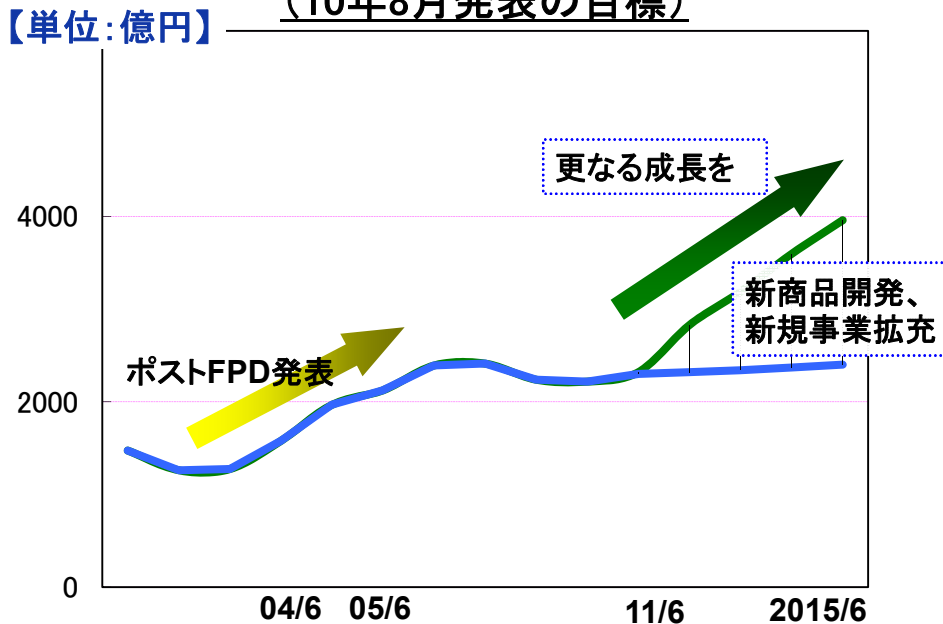
- ◆PV、マテリアルビジネスの
リバイバル(再興)
- ◆「単純化、共通化、標準化、
差別化」による収益性向上
- ◆グローバル化

PV&材料のリバイバル

受注高の推移(品目別)



売上高のイメージ (10年8月発表の目標)



**PV & 材料が今後の大きな柱
⇒リバイバル(再興)が必須**

不採算事業の再構築

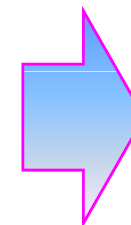
■ 今後の事業展開

▶ マテリアル事業

- ◆ ITOのリサイクル率の向上
- ◆ IGZO等酸化物ターゲットの一体型大型ターゲットで差別化を図る
- ◆ リフラクトリーメタル応用事業に注力
- ◆ 中国・蘇州工場や韓国・坡州工場へ生産シフトを加速

▶ マスクブランク事業

- ◆ 大型マスクなど売上げが増える新製品の拡販
- ◆ 集約化した一部製品を台湾・台南工場へ



早期の
営業黒字化

■ 長期目標

:売上高 4,000億円、営業利益 10%を目標

■ 長期目標達成の為に

1.PV、マテリアルが今後の事業の大きな柱
⇒PV、マテリアルの再興に注力

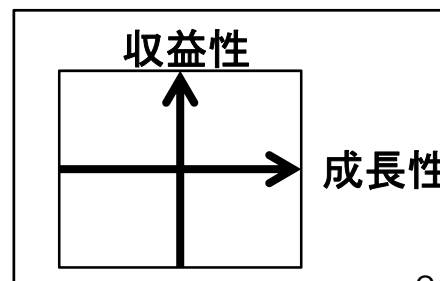
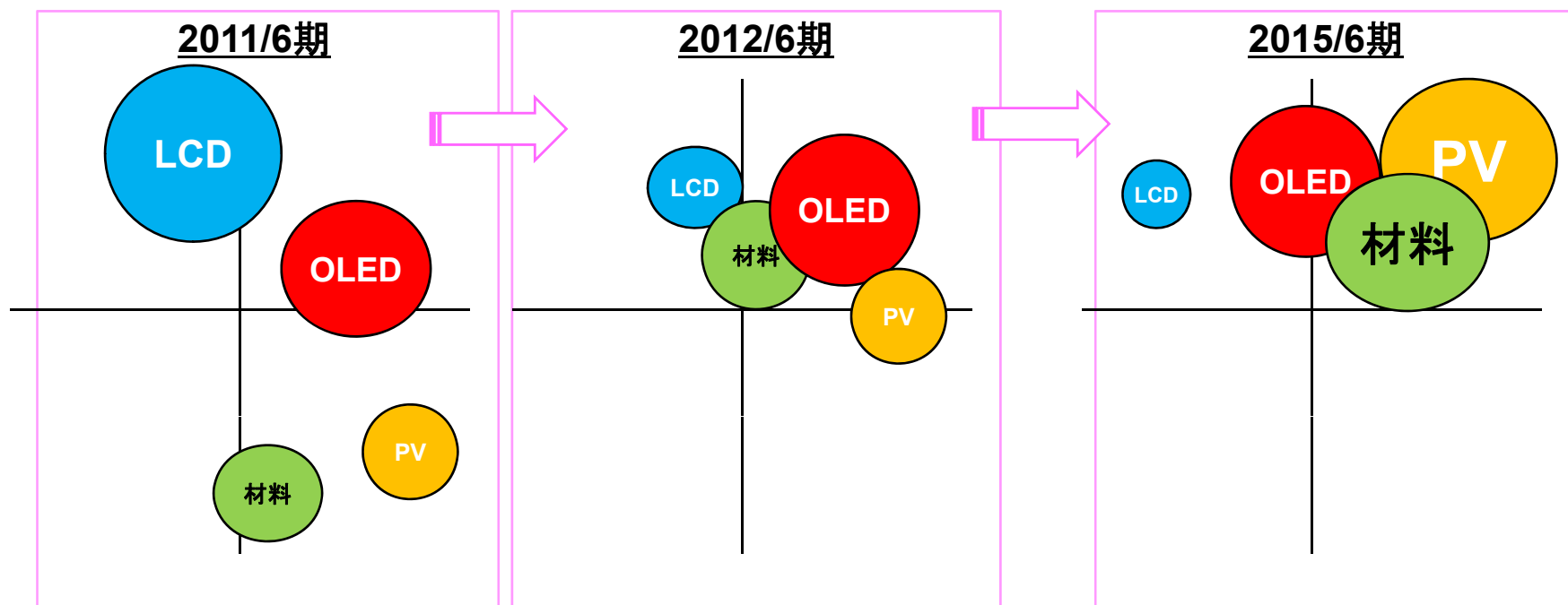
2.ROICを意識して資産効率と収益力向上

⇒不採算事業(マテリアル、成膜)のリストラ、
早期の黒字化で収益力向上

⇒単純化、共通化、標準化、差別化による収益性改善

- ・単純化→部品点数低減
- ・共通化→調達量増大
- ・標準化→提案型による非カスタム化
- ・差別化→価格競争回避

■ FPD、PV、マテリアル事業の将来イメージ



アジェンダ

業績概要及び予想

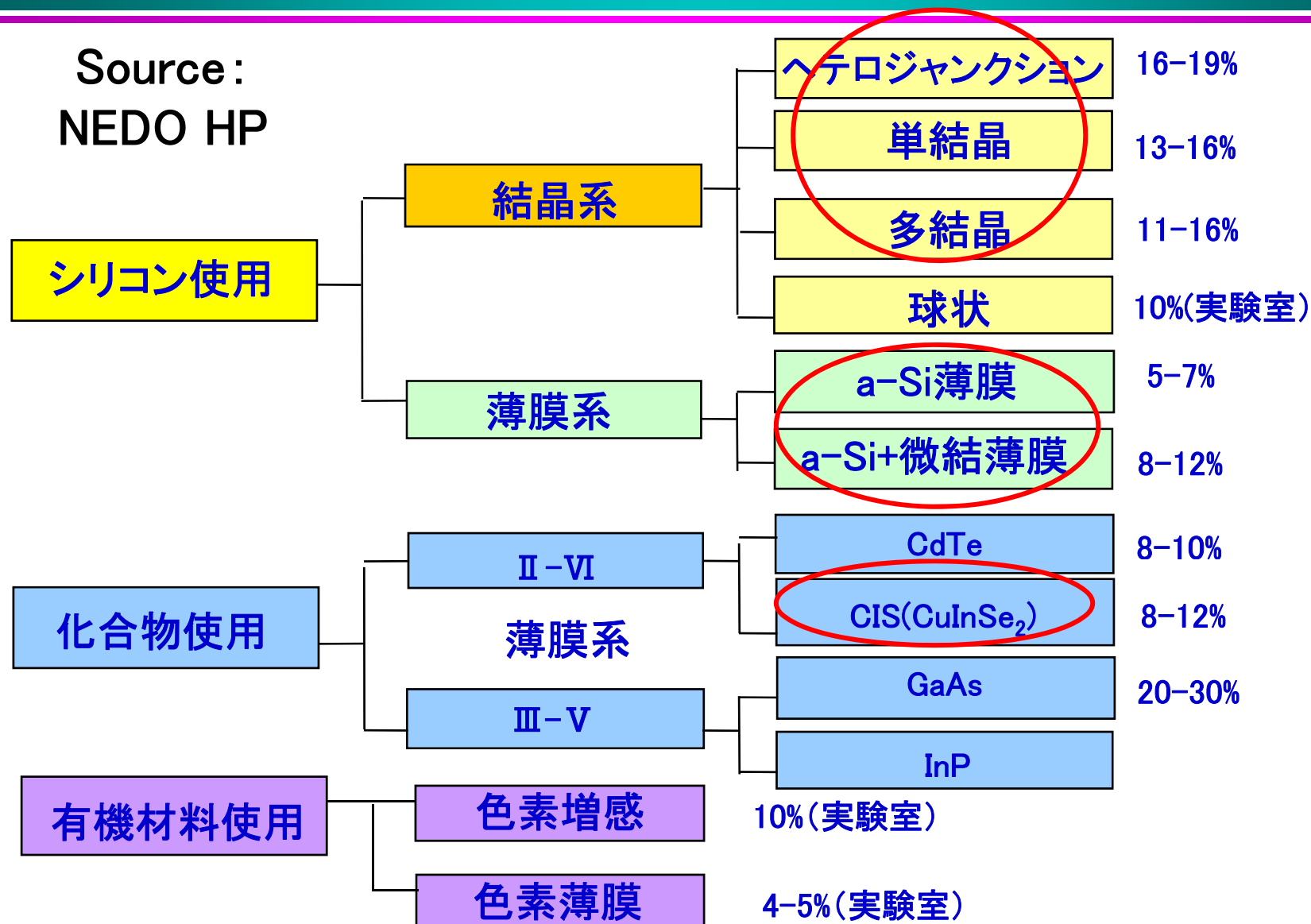


▶ 最近のトピックス

- 1) 急成長するスマートフォンFPDビジネスの展開
- 2) PV製造装置からクリーン電力応用システムまでの事業展開
- 3) エネルギー環境関連に貢献する半導体・電子部品装置ビジネス

各種太陽電池市場動向とアルバックの取り組み

Source:
NEDO HP



クリーン電力応用システムの事業展開

クリーン発電と充電システムビジネス基本形

ULVAC Solutions



【基本構成】

- 音声ガイド／日本語・英語・中国語・韓国語等の採用
- カラー画面表示／高輝度LCD採用
- 人感センサー付きLEDライト

【オプション】

- フェリカ(ICカード)対応

入力	3Φ 200～220V 55kVA,27.5kVA
出力	50kW,25kW
サイズ	720 (W) × 800 (D) X 1850 (H) mm
取得予定規格	CHAdeMO 規格、CE マーク



2011年12月発売予定

■ パワーコンディショナー

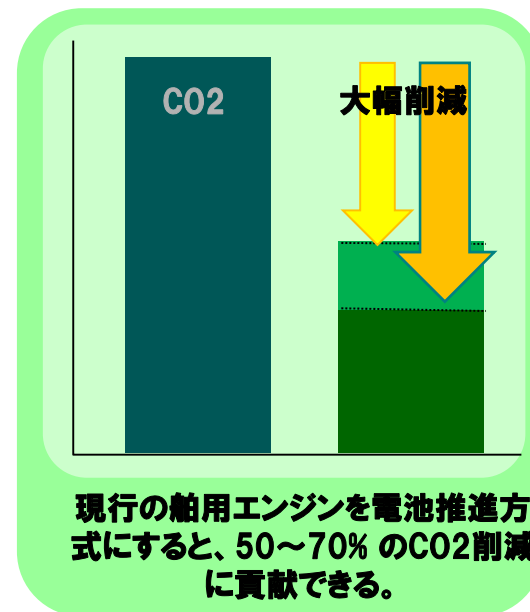
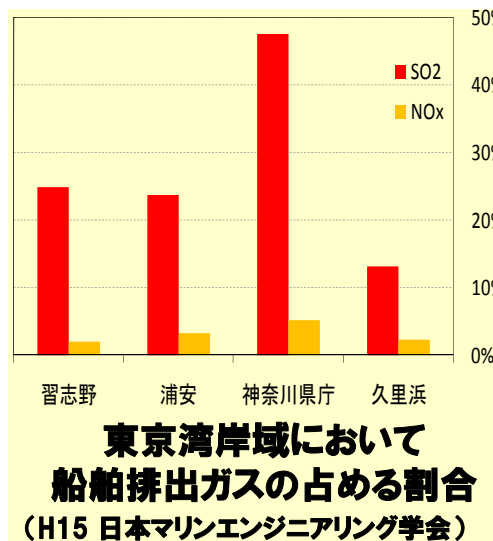
- ▶ 小規模発電用(11kw)
- ▶ 大規模発電用(100kw、500kw)



新型大規模発電用(100kw)パワーコンディショナー
2011年12月発売予定



東京海洋大学との共同開発



硫黄酸化物、窒素酸化物

◆騒音・振動が画期的に少ない

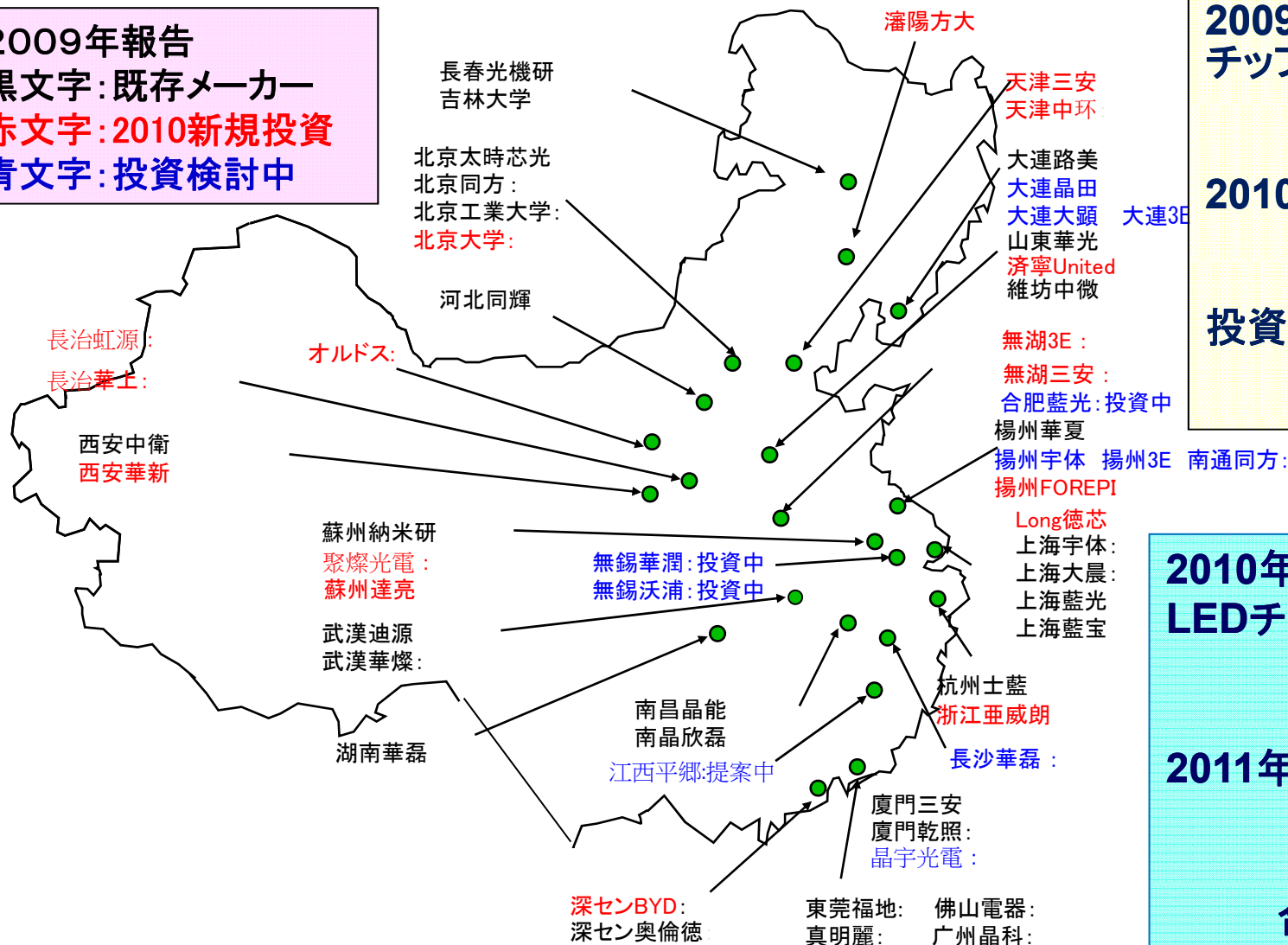
→観光船・交通艇・旅客船、生簀用漁船研究調査船への展開

◆排気ガスが無い

→排気ガス水中排出による湖沼汚染が無い。
→欧米ではエンジン船使用禁止の湖沼区域あり。

中国LED製造メーカー

2009年報告
 黒文字: 既存メーカー
 赤文字: 2010新規投資
 青文字: 投資検討中



2009年末まで、LEDチップを生産会社:

30社

2010年新規投資:

26社

投資検討中: 9社

合計 65社



2010年末、LEDチップを生産会社:

41社

2011年新規投資:

14社

合計 55社

出所: 当社調べ

アルバック蘇州における装置製造

装置	累積台数(2004年～現在)		
	LED(台)	半導体(台)	合計(台)
蒸着	47	166	213
エッチング	20	3	23
スパッタ	1	4	5
PECVD	13	0	13
アッシング	0	0	0

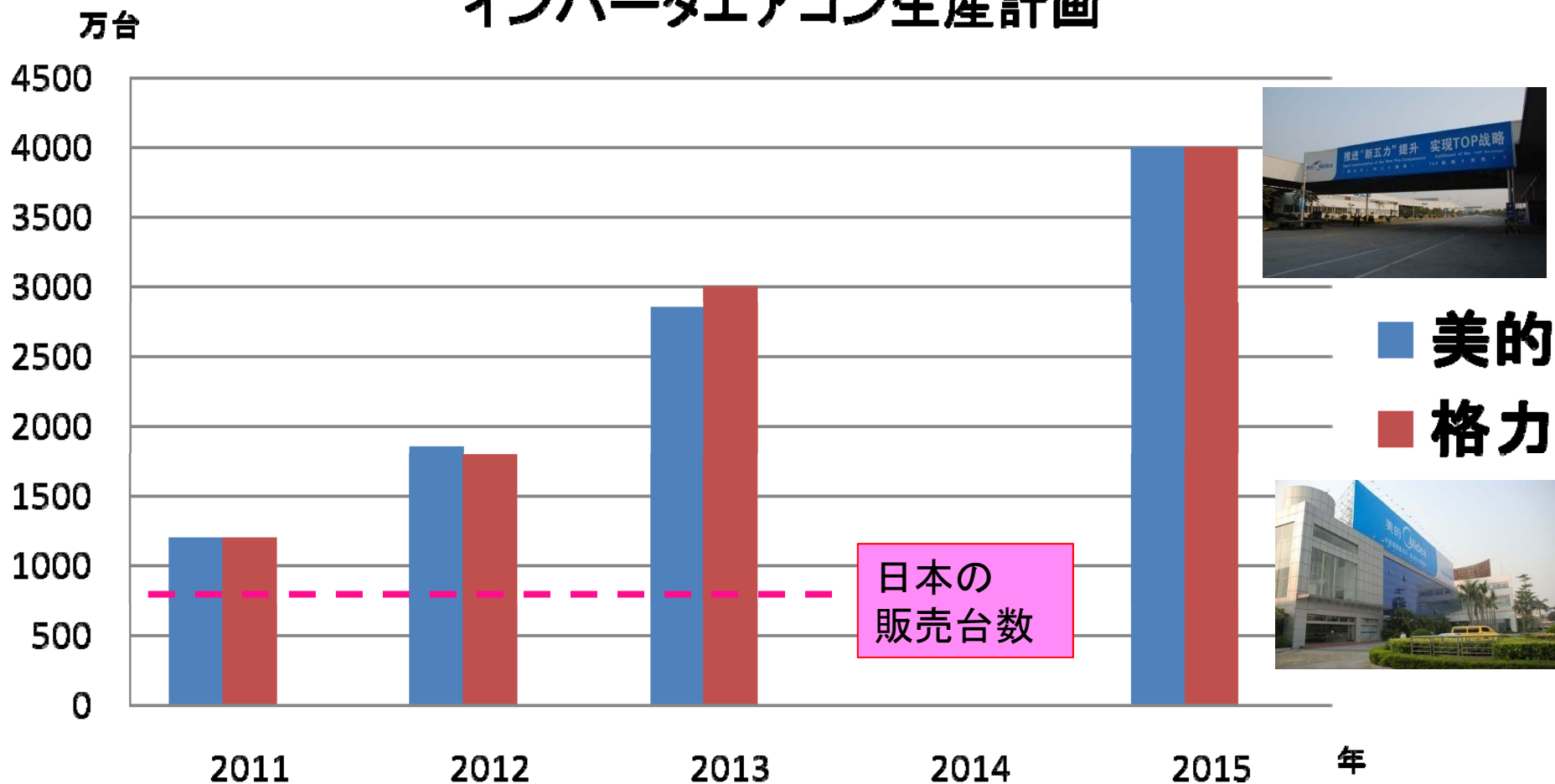


愛発科(蘇州)技術研究開発
 有限公司による現地での
 プロセス開発



中国のパワー半導体市場動向

インバータエアコン生産計画



出所：当社調べ

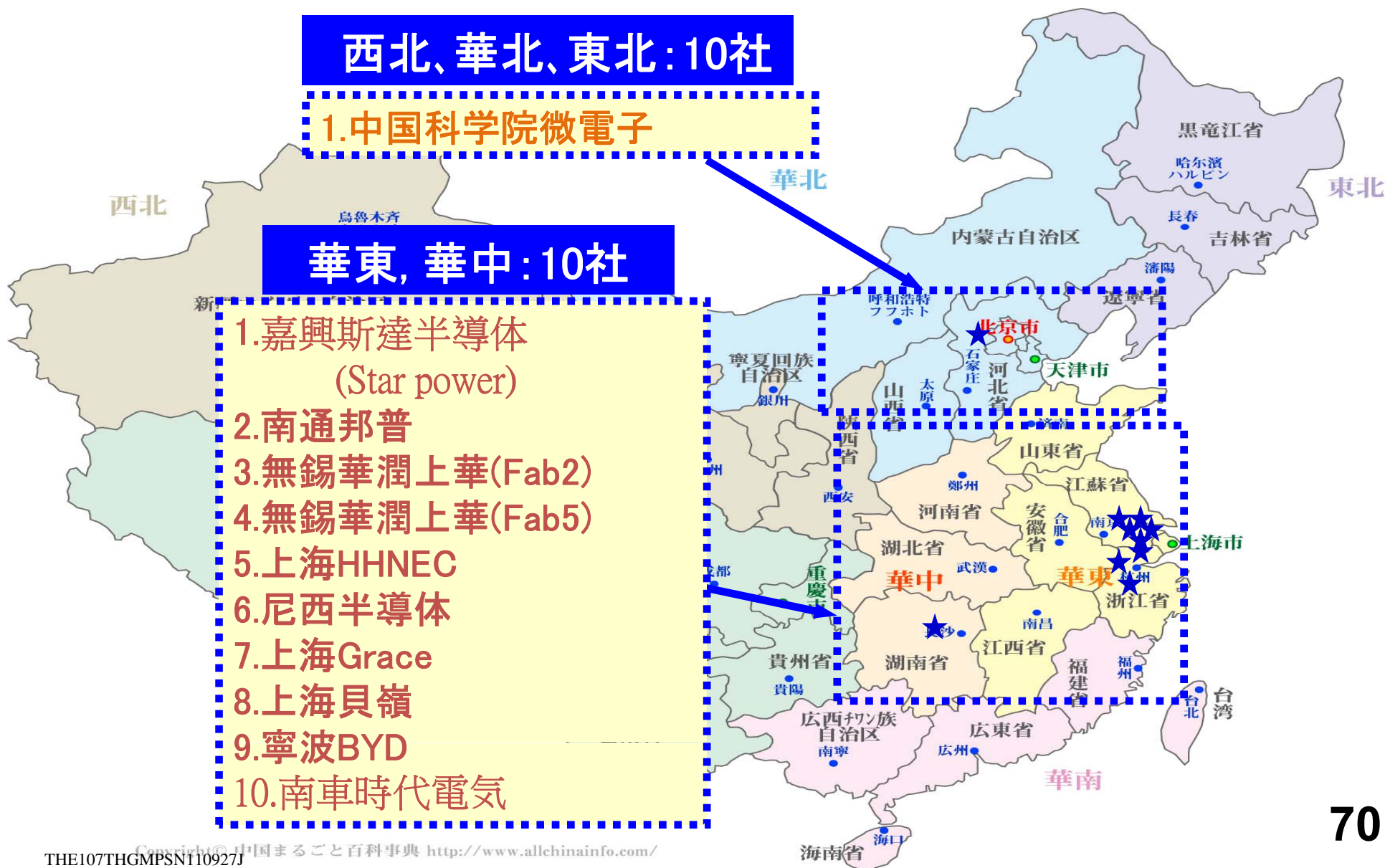
中国IGBT 投資状況

西北、華北、東北：10社

1.中国科学院微电子

華東, 華中：10社

- 1.嘉興斯達半導體 (Star power)
- 2.南通邦普
- 3.無錫華潤上華(Fab2)
- 4.無錫華潤上華(Fab5)
- 5.上海HHNEC
- 6.尼西半導體
- 7.上海Grace
- 8.上海貝嶺
- 9.寧波BYD
- 10.南車時代電氣



真空テクノロジーで
「つくる」をつくる、アルバック
ULVAC

本日は
ありがとうございました